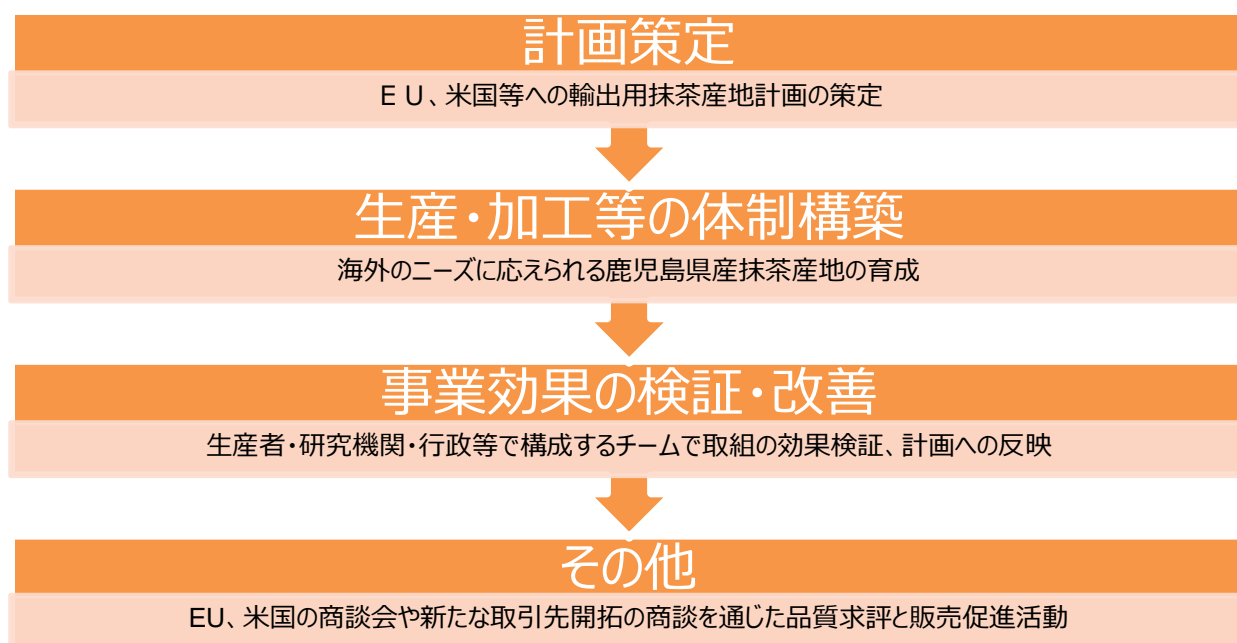


鹿児島県 輸出用抹茶産地計画 (申請者名：J A鹿児島県経済連)

1. 取組の概要

鹿児島県は全国2位の荒茶生産量の産地であるが、国内の緑茶需要は減少傾向にあり、今後さらに縮小する市場を巡って競争が厳しくなっていくことが予想されている。そのため、原料（荒茶）供給のみではなく、付加価値をつけた最終製品（抹茶を含む仕上茶）を、国内はもとより海外に届けられる産地へと成長していくことが必要である。中でも、抹茶（特にEUではオーガニック商品）のニーズが大きいことから、有機抹茶およびその原料となる有機てん茶等の生産体制を整備し、海外のニーズに応えられる産地育成に取り組む

2. グローバル産地形成の取組内容



3. グローバル産地計画のアウトプット

- 輸出用抹茶産地の拡大（県内他産地）
- EU、米国をターゲットとした輸出拡大

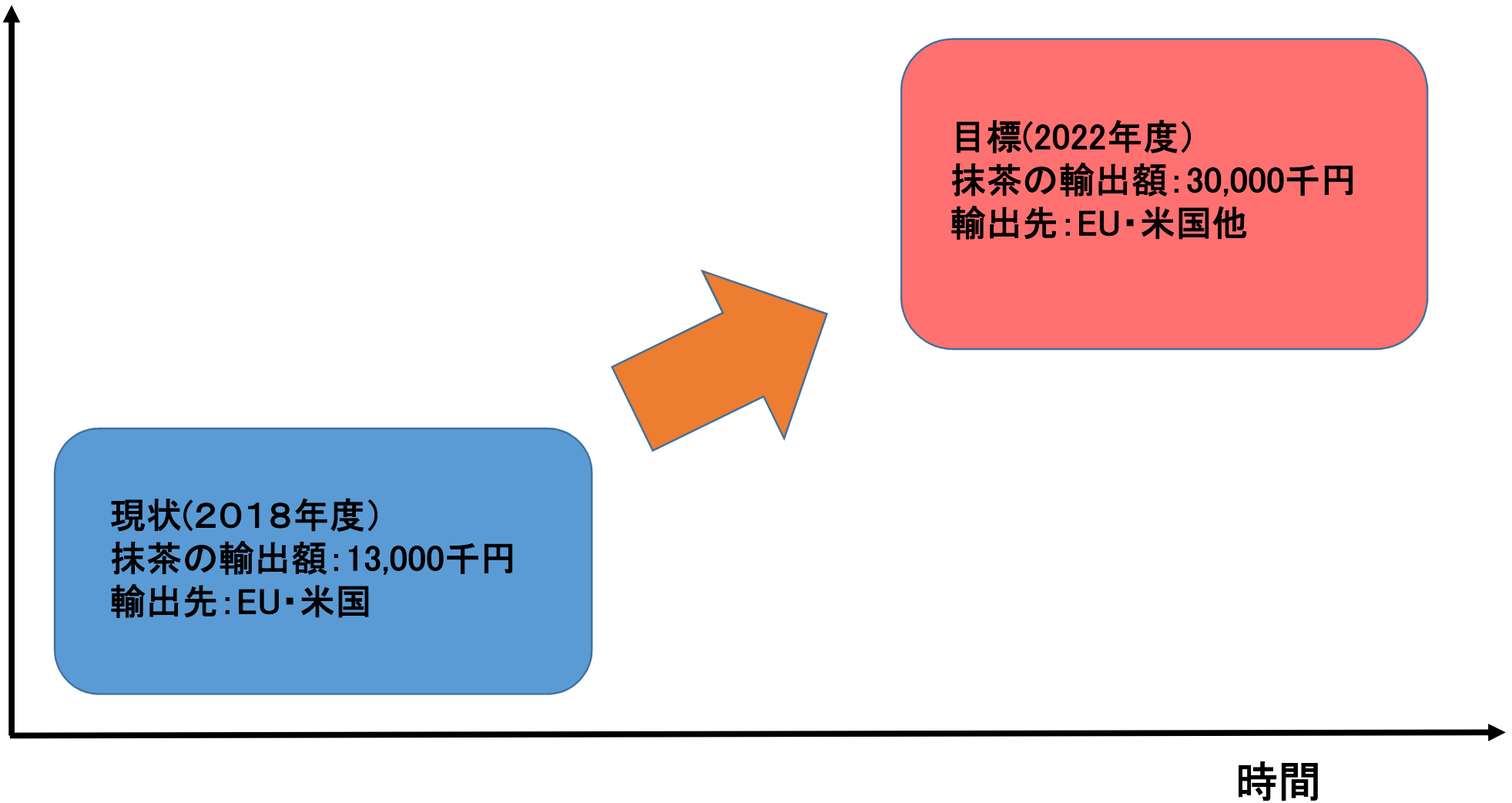
グローバル産地計画書参考資料 (鹿児島県輸出用抹茶産地計画)

達成したい目標(ゴール)	2
輸出を目指す背景と課題	3
輸出における課題と解決策	4
グローバル産地計画の実施体制	5
実施スケジュール	6

2020年1月17日

JA鹿児島県経済農業協同組合連合会
鹿児島市鹿児島市鴨池新町15番地

達成したい目標(ゴール)



【輸出を目指す背景と課題】

現状

- ・鹿児島県は荒茶生産量、有機栽培茶の栽培面積ともに全国トップクラスだが、原料供給が中心であり、県産の抹茶（およびてん茶）・煎茶等の付加価値の高い製品は少ない。
- ・国内の緑茶需要が減少し、相場の低迷による生産者の経営環境は厳しさを増す
- ・海外では抹茶の需要が拡大しつつあり、特にEUでは有機抹茶が有望

転換

目標

- ・荒茶から、より付加価値の高い抹茶（およびてん茶）、煎茶の生産
- ・海外でニーズの高い有機抹茶（および有機てん茶）の生産拡大
- ・EUおよび北米をターゲットとした本県産抹茶の輸出拡大
- ・生産者の手取り向上

【輸出における課題と解決策】

現在の課題

- ・海外のバイヤー、インポーターから有機抹茶を求められるが十分対応できていない
- ・受注の都度小ロットの輸出で対応しているが、配達までのリードタイムが大きい
- ・鹿児島県内の茶生産は煎茶が大部分であり、抹茶用てん茶(抹茶の原料)の生産拡大が必要
- ・有機栽培茶の生産においては、質・量の安定に向けた技術向上と、茶園の団地化等による農薬飛散防止対策が必要
- ・国際品質規格基準を持つ施設での抹茶加工が必要(グループ会社がFSSC22000認証工場所有)

チャレンジ

解決策

【生産】

- ・モデル農家と連携し、関係機関の指導のもと、有機てん茶の生産体系を確立
- ・他産地の輸出に意欲のあるてん茶生産農家の育成・産地の拡大
- ・有機てん茶に適した品種の選定及び改植

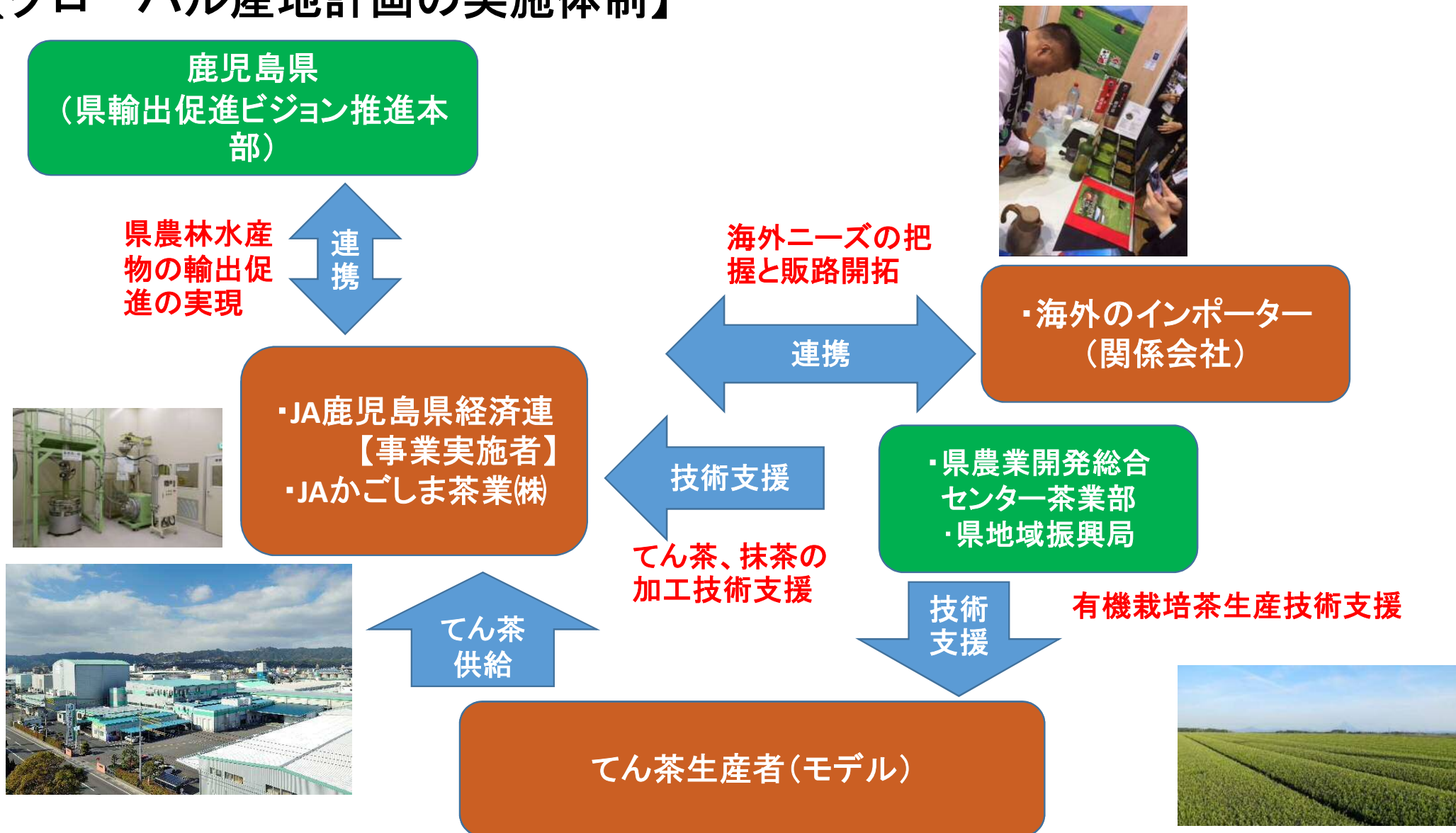
【加工】

- ・国際品質規格基準FSSC22000認証の維持
- ・ニーズに対応した多様な抹茶グレードの生産

【流通】

- ・発注のタイムラグをなくすため、現地在庫倉庫の確保
- ・有機抹茶等のEU市場における品質求評と商談
- ・現地関係会社等と連携した米国での販売先確保

【グローバル産地計画の実施体制】



【実施スケジュール】

	2019年度	2020年度	2021年度
産地計画	計画策定	PDCAサイクルを通じた計画修正	
有機栽培	有機てん茶モデル農家での実証	輸出に取り組む意欲ある生産者を新たに取り込み，原料となる有機栽培茶園を拡大	
有機抹茶加工	FSSC22000認証の維持 有機JAS認証更新	国際品質規格基準の維持、有機JAS基準の維持・更新	
品質求評 販路開拓	展示会出展、販路開拓、品質求評		